

6月26日(木) 15:50より、学校保健委員会を開催しました。

学校保健委員会とは、子供たちの健康の維持・確保と増進を図ることを目的に学校保健の問題を協議し、その実践を推進していくための研究協議と連絡調整を行うために設置されています。

委員は、PTA会長・副会長、PTA保健体育部員、各学年会長、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、保健師、栄養士、児童代表、学校教職員をもって構成しています。委員のみなさまには、お忙しいところご出席いただき、本校児童の健康のためにご意見をいただき、ありがとうございました。

内容

1. 講話 「アレルギーについて」 学校医 飯塚 恵美子先生 (いづかこどもクリニック)

アレルギー疾患全般にいえることは、皮膚のバリアをつくるのが大切である。

Point 規則正しい生活と日々のスキンケア

- ・毎日の入浴で清潔を保つ
- ・石鹸類は丁寧に洗い流す
- ・肌が乾燥しないようにする
(保湿・紫外線を防ぐ)

鶏卵アレルギー

- 鶏卵アレルギーの多くは卵白のタンパク質が原因であり、卵黄から解除できる場合が多い。
- 卵殻カルシウムは、焼成・未焼成とも鶏卵アレルギーの症状を誘発しないため、除去の必要は基本的にない。
- 鶏肉や魚卵は、鶏卵と原因タンパク質が異なるため、除去する必要は基本的にない。
- 鶏卵は加熱により抗原性が大きく低減するため、加熱卵が食べられても、生卵や半熟卵などの摂取には注意する。

牛乳アレルギー

- ▶牛乳アレルギーの原因タンパク質は加熱や発酵による変化を受けにくい。乳製品の中でも、タンパク質量の少ない食品(バターなど)や、多い食品(チーズなど)がある。
- ▶牛肉は牛乳と原因タンパク質が異なるため、除去する必要は基本的にない。
- ▶牛乳アレルギー児のカルシウム摂取量は、非牛乳アレルギー児の約50%で、非常に不足しやすい。普段の生活の中でカルシウムを多く含む食品から、適切に摂取できるようにする。
- ▶調製粉乳の中でも、特にアレルギー用ミルクにはビオチン、セレンなどの栄養素が十分量添加されていないため、乳児早期の牛乳アレルギー児は欠乏症に注意が必要である。

ソバアレルギー

- ▶症状が誘発された時に、比較的重篤化することが多く、注意が必要である。
- ▶ソバと同じ茹で汁で茹でたうどんなどは、コンタミネーション(混入)の可能性があるため、注意が必要である。
- ▶クレープや、そばぼうろなど菓子類の材料にもソバ粉が使われていることがあるため、注意が必要である。

茹で汁や揚げ油にアレルギーは残っています。

ピーナッツ、ナッツ、ゴマアレルギー

- ▶ピーナッツ、樹木ナッツ類(クルミ、カシューナッツなど)、ゴマなどはそれぞれ原因タンパク質が異なるため、まとめて除去する必要はない。
- ▶血液検査の結果だけで除去が指示されることがあるが、食物経口負荷試験を実施して指導を受けることが望ましい。
- ▶症状が誘発された時に、比較的重篤化することが多く、注意が必要である。

●意見交換● <<質問への回答は、飯塚先生です>>

○食物アレルギーの検査について○

質問：食物アレルギーと診断され、その後血液検査はどのくらいの頻度で行うべきか。

回答：1年に1回は、血液検査をして確認していることがベストである。

○アレルギーの周知について○

質問：自宅にお友達が遊びに来て、食べ物をだすとき、アレルギーの有無がわからず、不安である。どのように対応していくのか。

回答：学校内では、個人情報のため、把握している食物アレルギーの周知はおこなっていないが、今後対応を検討したい。

また、そのような場合には、親同士の交流の中で、適切な情報交換をおこなってほしい。

2. 協議内容

(1) 児童保健委員会について

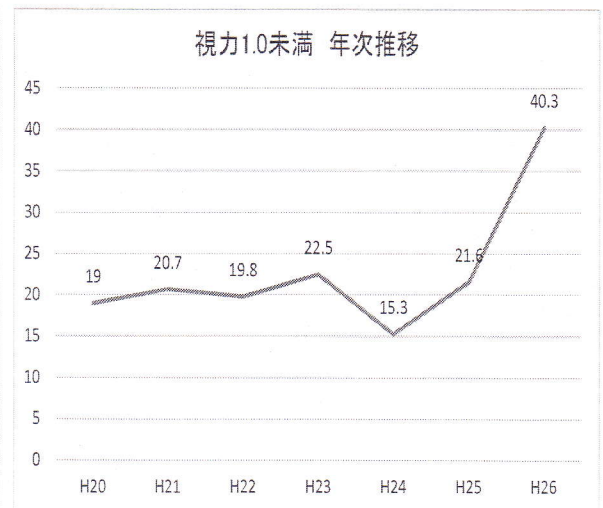
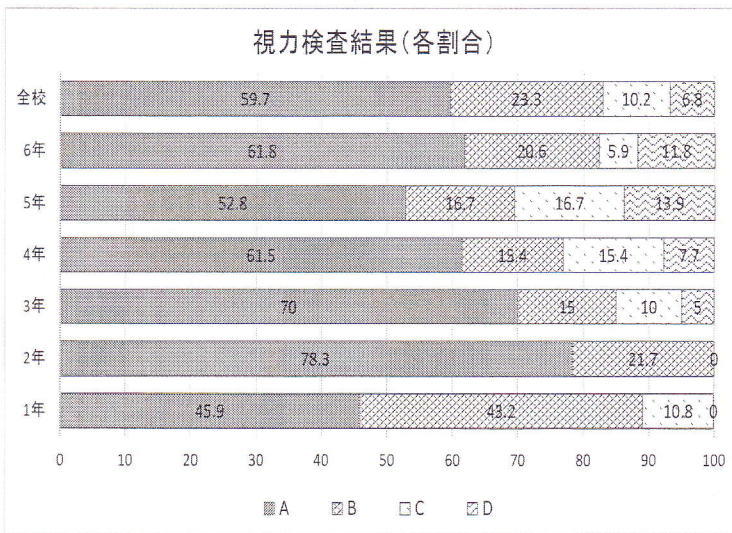
保健委員の代表児童より、活動内容、活動報告についてお話がありました。

特に今年度は、年度初めに行った健康調査により見出された健康課題について取り組んでいます。

(2) 健康面について

*体位・・・男女ともに標準的な体型の児童が多く、バランスよく成長していますが、高学年にあがるにつれて、やせ傾向、肥満傾向ともに出現がみられます。現在成長期にあるため、生活習慣などを含めて今後経過観察していくことが重要です。

*視力検診・・・本校の視力の状況は、視力 1.0 以上の児童の割合が著しく低く、年次推移からみても、視力低下傾向にあります。とくに 0.9~0.7 の視力の児童割合が全国平均よりも高く、年次推移からみても増加しています。視力低下は、ライフスタイルや、長時間の近作業、勉強の姿勢などさまざまな要因が関わるため、今後の経過をみていく必要があるため、各家庭でもご協力をおねがいします。



*歯科検診・・・むし歯の罹患率は、過去5年の経過から減少傾向にありますが、全国の罹患率と比べるとまだ高い水準であるため、口腔内衛生の向上が必要です。本校では、歯科校医の小林先生による歯磨き教室や市の歯科保健事業などにより、全学年が専門家に歯科指導を受ける機会があります。児童一人一人が自身の自己管理能力の向上ができるように、ご家庭でもご協力をお願いしたいと思います。

全校児童 歯科検診結果

★むし歯無し：25.0% ★むし歯有：37.2% ★処置済み：22.7%

治療をなるべく早く開始することが治療期間を短くし、治療費用を低く抑えることにつながります。早期治療をお願いします。

*内科検診等その他の検診・・・特に大きな疾病等ありませんでした。精密検査が必要な児童については、家庭と連携し、個々に対応していきます。

(3) 体力面について

新体力テストの結果より、シャトルランについて昨年度よりも伸び、改善傾向にあるが、まだ全国平均に届いていない状況です。そのため今年度も、体力づくりの実践運動として、始業前の持久走、エアロビ運動、ラジオ体操などの取り組みをしていきます。